

# 学校図書館活用研究

研究テーマ

継続的に学校図書館を利活用するための学習活動の工夫  
—授業における新聞活用の充実と委員会活動を核とした読書活動の啓発—



## 1 はじめに

「下野市学校教育計画」 2 「豊かな心」を育む教育の推進（2）読書活動の推進 より

**学校図書館活用研究**は学校図書館活用研究のテーマに係る内容

努力目標	努力点
① 学校図書館の活用を図る。	ア 学校図書館教育担当を中心に、全職員が協力しながら環境を整備する。 イ 図書支援員と連携し、授業やその他の場面における学習活動を通して計画的、継続的に学校図書館を利活用する。 ウ 生涯学習文化課や市の図書館との連携・協力を密にする。
② 読書の習慣化を図る。	ア 一斉読書活動の時間等を定期的に設ける。 イ 家族で読んだ本や新聞記事について話し合ったり、好きな本を紹介し合ったりする「家読（うちどく）」を奨励する。
③ 自主的、自発的な読書活動を啓発する。	ア 委員会による読書集会や児童生徒の運営による読み聞かせなど、児童生徒が主体となった読書活動をする機会を設ける。 イ 図書の紹介やビブリオバトルなど、読書への関心を高める活動を積極的に取り入れる。
④ 新聞を活用した学習活動の充実を図る。	ア 「下野市新聞の日」における活動のほか、新聞を活用した学習活動を積極的に取り入れる。 イ 学校図書館等に新聞コーナーを設けるなど、児童生徒が新聞に慣れ親しめるよう環境を整備する。

学校図書館活用研究会では、令和2年度から新聞活用についての研究を進めてきた。背景として、様々な文字媒体に慣れ親しむことができる児童生徒と文字を読むこと自体に抵抗がある児童生徒の二極化が見られること、ここ数年の全国学習・学力状況調査等の質問紙結果において、児童生徒の半数以上が「新聞をほとんど読んでいない」と回答するなど、児童生徒の新聞離れの実態が浮き彫りになったことが挙げられる。

令和2年度から3年度にかけては、研究内容を「新聞を活用した学習活動の工夫」とし、授業や家庭学習で活用できるワークシート作成と新聞の有効活用が期待できる単元の選定を中心に研究を進めてきた。2年間の研究を受け、令和4年度と令和5年度においては、これまでの成果と課題を踏まえ、教科横断的な視点から新聞活用の更なる推進を図ってきた。併せて、委員会活動を核とした読書活動の啓発についても研究を進めてきた。

## 2 研究内容

- (1) 教科横断的な視点からの新聞活用の研究
- (2) 委員会活動を核とした読書活動の啓発



## 3 研究の実践

- (1) 教科横断的な視点からの新聞活用の研究

### ①新聞活用単元一覧表の改訂（細谷小学校・石橋北小学校における実践）

令和6年度から採択される小学校用教科書の改訂に合わせ、昨年度作成した「新聞活用単元一覧表」の見直しと修正を行った。また、一覧に記載されている単元の中から、新聞を活用することで学習の効果が上がることが期待できる単元、題材を選び「新聞活用授業シート」を作成した。シートには、効果的な活用のため「新聞活用のポイント」を記載している。国語を中心に体育、算数等様々な教科の事例を掲載している。

### 〔新聞活用単元一覧〕小学校第3学年の例

単元	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
10月	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ	●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ ●おとぎ話の読み聞かせ

9月

- わたしと小鳥とすずと
- 夕日がせなかをおしてくる
- こんな係がクラスにほしい
- ポスターをよもう
- 書くことを考えるときは
- 漢字の組み立て
- ローマ字

●ちいちゃんのかげおくり

●市の人びとの仕事  
売る仕事

●あまりのあるわり算

●大きい数のしくみ

年間を通した活用を見通せるよう、新聞活用が可能な単元、題材にマークを付けています。

### 新聞活用授業シート【3年生：算数】

単元・題材名（本時 6/10時）

10000より大きい数を調べよう。

②本時のねらい

- 新聞の記事から10000よりも大きな数を探し、大きさを比較したり相対的に捉えたりする活動を通して、生活の中で目にする大きな数に関心をもつことができる。

③主な学習活動

- ①新聞の中から、一億までの大きな数を見つけ、タブレットで写真を撮る。  
線を引いて、大きな数を書く。

- ②見つけた大きな数を発表する。  
○グループで発表しあい、グループ内で一番大きな数を見つける。  
○各グループで見つけた大きな数を発表し、大きさ比べをする。
- ③見つけた数の大きさを相対的に捉える。  
例① 2550万円は、この100万円の東が約25個分。  
厚さは1cmなので、25cmぐらいになるね。  
例② ○○万人は、下野市の人口の約○倍なんだね。
- ④本時の振り返りをする。

④新聞活用のポイント

- 記事全体を画像に残すことで、数を取り巻く事象と一体に数を捉えることにつなげられる。書き込みをすることも可能になる。
- 新聞に記載された数に着目して大きさを捉える活動は、今後の生活や学習においても数に対する関心を高めることが期待できる。

新聞活用授業シートを作成した単元、題材にはリンクを張り、クリックして内容を確認できるようにしています。

新聞を活用する上での配慮事項や指導上の留意点を「新聞活用のポイント」として示しています。

「新聞活用単元一覧」と「新聞活用授業シート」はWinBird文書フォルダからダウンロードできます。  
文書フォルダ>教育委員会>100教育研究所  
>「下野市新聞の日」内

②国語科における新聞活用の研究（南河内小中学校後期課程における実践）  
年間を通して以下の内容を実施した。

回	教科	内容
第1回	国語	・興味関心をもった記事を選び、関係のある言葉や物事をインターネットで調べて文章や図でまとめる。《ワークシート》
第2回	社会	・《専用ワークシート》での実践
第3回 第4回 第5回	国語	・新聞全体を読み、「読者登壇」の中から記事を選び、感想や筆者へのメッセージ、自分の体験談等を文章でまとめる。《ワークシート》

〈工夫した点〉

第3回からは、「読者登壇」に視点を定めて読む活動を取り入れることで、同じ読者の目線から文章を捉えられるようにした。書く活動においては、「誰に向けた、何を目的とした文章なのか」を明確にすることで生徒の文章構成力の向上を図った。

(2) 委員会活動を核とした読書活動の啓発

①常時活動と読書行事に関わる活動の充実（南河内小中学校での実践）

**常時活動における工夫**

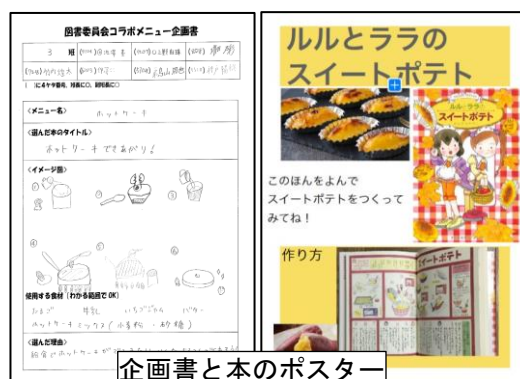
給食時に、新刊図書のお知らせ、おすすめの本達成者の表彰、読書月間についてなどの放送を定期的に行った。

**読書行事（読書月間）でのイベントの企画や運営の工夫**

1月を校内読書月間に設定し、学校全体で取り組めるようイベントの企画や運営を工夫した。

**【給食メニューの考案】**

栄養教諭と連携し、物語に登場する料理から献立化が可能なものを選考し、企画書を作成した。併せて、採用した物語の朗読動画を作成し、給食での提供日に各教室で放映した。本と献立のレシピポスターも作成し、メディアセンターに掲示した。



企画書と本のポスター

**【おすすめの本紹介文やPOPの作成と掲示】**

市立図書館主催の「わたしのおすすめ本」の推薦文やその他の書籍のPOPを作成し、本と一緒にメディアセンターに掲示した。



メディアセンターに掲示したPOP



**【読み聞かせボランティアとの連携】**

読み聞かせボランティアの方に昼休みに各クラスで朗読やお話をしていただいた。また、読み聞かせボランティアの方に図書委員が指導を受け練習を重ねた後、昼休みに1～9年生の各クラスで読み聞かせを実施した。



ボランティアによる読み聞かせ



ボランティアによる指導



図書委員による読み聞かせ

## ②読書習慣の改善に向けた委員会活動の充実（国分寺中学校での実践）

### 「朝の読書」の時間の設定

本校では、今年度から登校後の朝の読書を開始した。本活動は、近年、国分寺中学校区の読書量が減少している現状を踏まえ、改善への一手として始まった。主なねらいとして「本に慣れ親しむこと」、「読解力の向上」の2点を設定した。4月は、図書館教育担当教員が読書ガイダンスを行い、読書の意義、利点などを全校集会で解説した。朝の読書時のルールについて、全学年で共通理解を図った。



### 図書委員会の実践

#### 【アンケートに基づく学級文庫の選書と設置】

朝の読書の開始に伴い、各教室で必要とする本が増加した。そこで、図書委員が各クラスの読みたいジャンルに関するアンケートを実施し、結果を基に学校図書館から学級文庫を選書した。1、2か月ごとにアンケートを実施し、学級文庫の更新を行った。



#### 【図書委員のおすすめの本の紹介やPOPの作成】

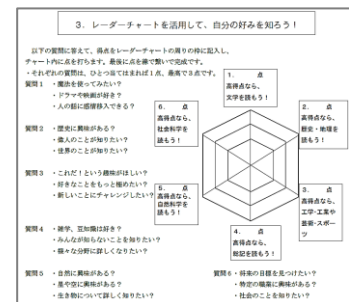
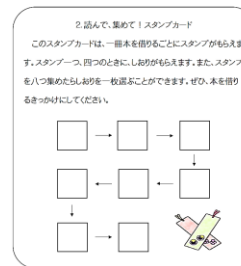
読書週間で作成し、図書館への掲示を予定している。図書委員一人一人がおすすめの本を選び、その本を紹介するPOPを作成した。一緒に生活する同世代がどのような本を好むのかを知り、読書の幅が広がるきっかけになることをねらいとした。

#### 【国分寺図書館内での国中生おすすめの本コーナーの設置（計画段階）】

先述のPOPの中から数点選び、来年度、市立国分寺図書館のYA（ヤングアダルト）コーナーに掲示してもらうことを検討している。地元の中学生の好みを地域にも伝え、地域全体の読書意欲向上につながることを期待したい。

#### 【「図書委員会だより」における工夫】

学校図書館に足を運ぶための方策として、スタンプカードやレーダーチャート、質問紙を作成した。作成後は図書委員会だよりに掲載し、全校への啓発を図った。



掲載したスタンプカードとレーダーチャート

### 中央委員会と生徒会を中心とした実践

本校では、令和2年度から小中一貫教育の一環として、中学生が学区内小学校での読み聞かせ活動を実施している。読み聞かせ当日に向け、委員会活動の時間や放課後の時間を活用し、中央委員会と生徒会のメンバーが、地域のボランティア団体の助言を受けながら練習を重ねている。普段読書にあまり親しみのない小学生にも読書へのきっかけを提供することで、国分寺中学校区全体での読書習慣の定着化を図っている。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・新聞を活用した学習活動を実践する際、目的を明確化したことでねらいとする資質・能力の定着につながった。
- ・生徒主体となるよう委員会活動を活発化させたことで、校内全体の読書意欲が高まり、読書の習慣化を図ることができた。

### (2) 課題

- ・複数日にわたって新聞を活用する学習活動を取り入れたり、中学校においては全教科での活用を呼び掛けたりするなど、より充実した新聞活用に向けては今後も研究の余地がある。
- ・読書の習慣を定着させるには、単年度ではなく数年にわたって学校全体で読書活動の推進に取り組む必要がある。今後も継続的な働き掛けが必要である。